

加藤清正の菩提寺・本妙寺(熊本市花園)に所蔵され、劣化が進んでいた同寺第三世・日遙上人の肖像画掛け軸などの修復作業が完了し、12日、同寺に搬入された。15日から同市の鶴屋百貨店で開かれる「加藤清正と本妙寺の至宝展」に出品される。日遙上人は1593(文禄2)年、朝鮮出兵中の清正軍に捕らえられ、日本に連れ帰られたという。十数年の修業の

「日遙上人」よみがえる

熊本市・本妙寺 肖像画を修復

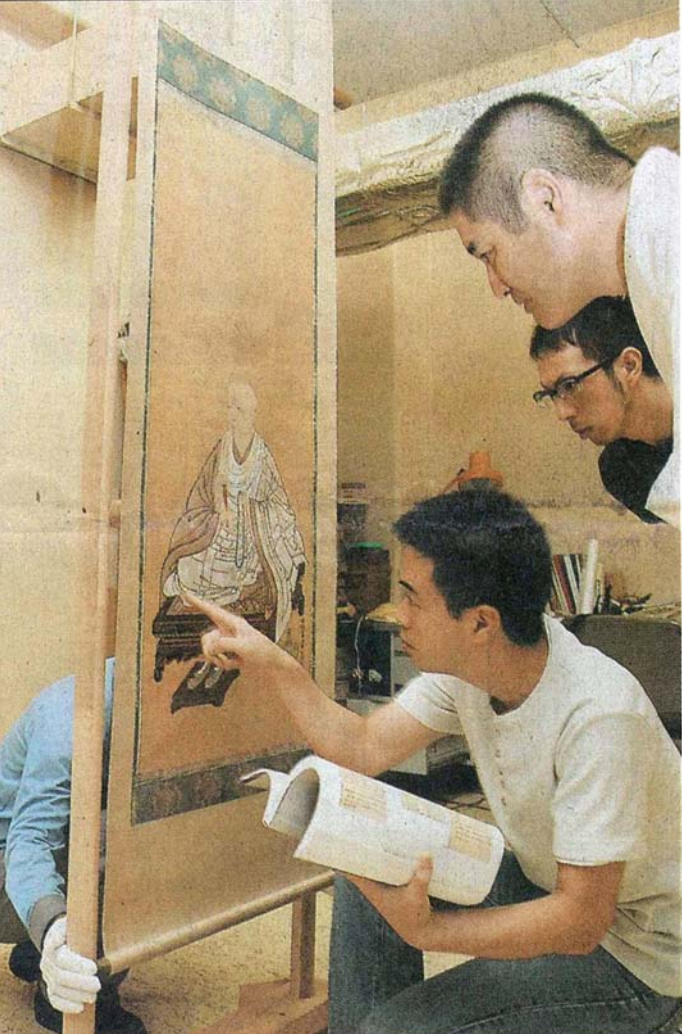
11〜13面 加藤清正と本妙寺の至宝展

後、1611年の清正逝去に際して本妙寺に帰山、第三世となった。肖像画は1701(元禄14)年、肥後国出身の狩野派画家・蘭井守供によって描かれた。縦108枚、横43枚で、絵の絹地が複数力所で破れるなどしており、市内の専門業者に4月に補修を依頼。絵の具のはく落止め加工も施した。

ほかに、清正が仕えた豊臣秀吉の肖像画(縦78枚、横86枚)も修復し、表具に生えたカビを除去した。

本妙寺の池上正示副住職(50)は「このままでは修復不能の状態になると危ぐしていたので、感無量」と話していた。

同展は21日まで。一般料。500円、高校生以下無料。(内海正樹)



修復が済んだ日遙上人の肖像画を確認する本妙寺の池上正示副住職(右上)ら=熊本市の同寺